

H29. 8. 28 佐久穂小・中学校視察に出された質問と回答

(Ans. 佐藤元校長、小澤係長)

○井出教育長：

Q. 教科担任制・乗り入れ授業について、1年度ごとに重点目標が違うのはなぜか？

Ans. 毎年教員の異動があり、その年により教員の考え方、免許の違いがある。

家庭科、算数、理科、体育を行っているが、基本的には学校長の考え方に任せている。

中学の正規教員による実施は難しいので、講師（県費・町費）により実施している。

（教科担任制と言っているが、実際は乗り入れ授業やTT指導のこと。【確認済】）

○新海一禎委員

Q1. 学年の区分け、例えば 4-3-2 がよいシステムだと思う。義務教育学校でしかできないと思っていたが、小中一貫型でもできるのか？建設に当たって、いろいろな対応ができ得るレイアウトにしていきたい。

Ans. 施設一体型の小中一貫教育であればやりやすい。

Q2. 中学生の精神年齢について、小中一貫だと中学生が幼稚化？高1ギャップ？

Ans. 小学生が幼いまま中学生になる（小6が成長しない）との意見もあったが、小6で卒業式・中1で入学式、児童会・生徒会の別、制服等の切り替えなどがあり、小学校と中学校は別の物。高校での挫折も聞いていない。

Q3. 部活動に5・6・7年のカテゴリー

Ans. 部活動は完全に中1からでないと参加できない。体験、憧れ、興味はあるだろうが。但し小学生時からの競技経験は明らかに有利である。

○江川尚友委員

Q. 佐久穂町は今後、義務教育学校へ移行するのか？

Ans. 現状継続であろうと予測する。義務教育学校は教員の負担増の問題や免許制度の問題がある。義務教育学校については信濃小中を参照されたい。

○林崇介副会長

Q. 地域における学校サポートの様子を伺いたい。

Ans. 学校応援団を結成（160人。登下校の安全見守り、本の読み聞かせ、登山等行事随行、学習支援など）

【地域の力が一つになって、自分たちの学校を担う・育てるの意識が結集した】

補足（小澤係長）：統合後3年間加配教員の配置を受け、教員全体が各校で摺合せ等を行った。多かった課題；通学手段（スクールバス）運行面の細かい部分

○上村和加子委員

Q. 建設地決定の経過は？

Ans. 学校づくり委員会で場所（茂来館付近）を答申（提言）。

その後、行政サイドが茂来館付近での課題があることから佐久中学校敷地に変更する決定をした。

○今井澄江委員

Q. スクールバス通学の最長時間は？

Ans. 概ね30分

Q. 小中一貫教育の良かった点、たいへんだった点は？

Ans. 小学校の統合に子ども達が馴染めるか、中学生と一緒にいられるのか、心配だった。

統合前に、全教員による教育計画づくり、合同行事の開催、同じテスト、一緒に遊ぶ、部活の合同練習、小中一貫だよりの月2回発行、同じ制服、同じ校歌、、

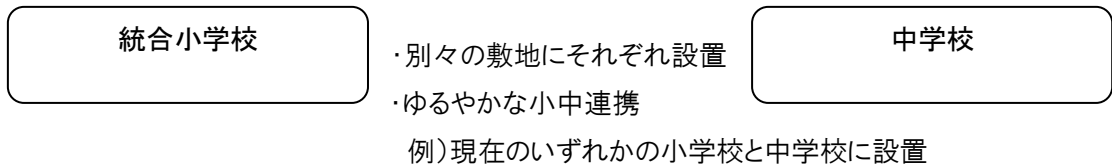
- (まとめ) ・統合される学校、新しい小中一貫教育に対し保護者からの苦情・クレーム ……無し
・児童、生徒の様子は？ 小中学生が一緒にいることでのトラブル ……無し
・小→中への切り替えができない、いじめが継続するなど保護者の心配 ……無し

↓

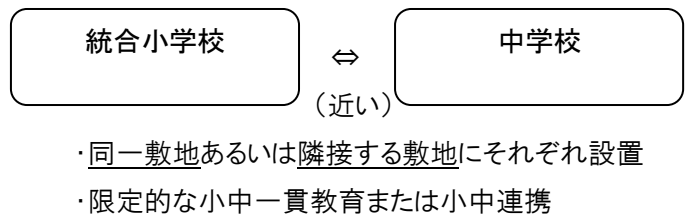
それぞれが自覚を持ちながら、それぞれがいい関係で存在できている

南牧村における小中一貫教育の姿

1. 施設分離型

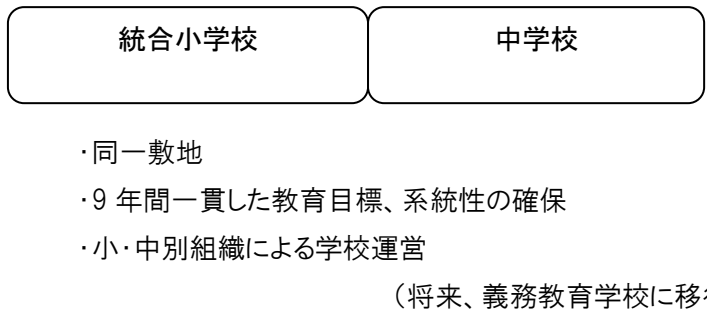


2. 施設隣接型

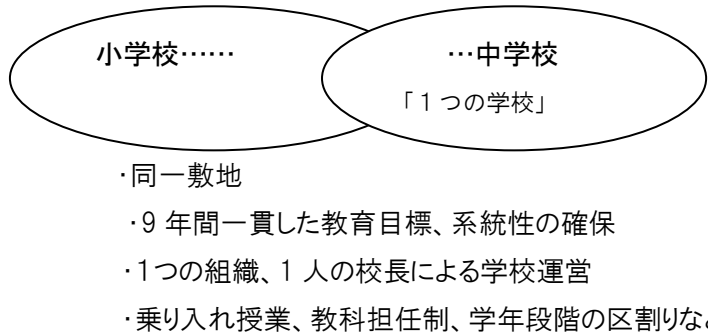


3. 施設一体型

① 小中一貫型小・中学校



② 義務教育学校



③建設地、建設時期の協議

・建設候補地としては ①北小 ②南小 ③中学校 ④新しく用地を取得する

・建設の時期は ①可能な限り早く ②児童数が減少するのを見極めて

☆候補地それぞれのいい点、悪い点★

①北小

☆いい点:比較的温暖、駅・役場・郵便局が近い

★悪い点:ぢ吉が狭い、西側が高い山林で造成が困難、すでに変形地である

②南小

☆いい点:平坦地、敷地が広い、雄大な八ヶ岳が見れる、ショートスケート場が近い、徒歩通学の児童が多い

★悪い点:冬季の厳しい自然環境、駅・役場・郵便局などが遠い、教職員は佐久地方からの通勤が困難

③中学

☆いい点:山麓に囲まれ静かで穏やかな気候

★悪い点:敷地が狭い、北・東・西側が山林で造成が必要、高低差がある変形地形

④新しく用地を取得する

☆いい点:理想的な施設設計ができる

★悪い点:場所によっては用地取得までに長い期間や高額な取得費用が必要